

2024年10月30日

佐賀県知事 山口祥義 様

さよなら原発佐賀連絡会代表 豊島耕一
原発なくそう！九州玄海訴訟弁護団 幹事長 東島浩幸
原告団共同代表暫定代行 染谷孝
原発と放射能を考える唐津の会代表 吉田恵子
玄海原発対策住民会議代表 成富忠良
佐賀県原発問題対策協議会代表 武藤明美

2022年5月9日提出の脱原発佐賀ネットからの質問・要請に対し、2022年6月8日に御回答頂きありがとうございました。

その後、今年の正月に、石川県能登地方で、マグニチュード7.6の地震が起き、家屋倒壊、道路寸断で、住民は避難困難、志賀原発も不具合が多発しました。また、南西諸島の自衛隊ミサイル基地建設、佐賀空港の軍事基地化計画（オスプレイ配備）など、軍事的緊張を高める事態が生じており、それに伴い原発のリスクも増大したと思います。したがって、時間は経っておりますが、問題は継続しているだけでなく一層深刻化しています。そこであらためて有志団体に関連しての質問と要請をいたします。以下についてご回答宜しくお願いします。

(県の回答: https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00385158/3_85158_243358_up_n8c2plip.pdf)

1. 乾式貯蔵施設と使用済み核燃料について

- (1) これらは航空機、隕石、ミサイル等の落下に対して、被害を防げるとお考えですか？
- (2) これらの施設等の破壊被害の状況を把握し、対策を立てるためには、乾式貯蔵施設に入れられる使用済みウラン燃料1トンあたりの放射能やセシウム137の放射能の量を知る必要があります。それらの値をお知らせください。
- (3) また、九電は、使用済みMOXは乾式貯蔵施設には入れず、玄海3号機の使用済み燃料プールに保管されていると聞いています。使用済みMOX1トンあたりの放射能とセシウム137の放射能の量をお知らせください。
- (4) 乾式貯蔵施設や使用済み燃料プールの、落下物による破壊に対する防止策についての国や九電の考えをお知らせください。

2. 原子力防災訓練に関して

- (1) 佐賀県知事は、「県内のUPZ（5～30キロメートル）内の住民の約17万人の方が避難される場合でも、1週間程度の期間でゲート型モニタによる車両検査を行うことは可能と考え

ている。」と回答されていますが、「1週間程度で可能」という算定の根拠をお知らせ下さい。

(2) 住民避難の際のスクリーニング会場でふき取って汚染検査にかける部位は、線量計で数cmの距離で40,000cpm以上のところのみです(注1)。これは、表面密度約120Bq/cm²以上に相当し、放射線管理区域内の限度とされる、 α 線放出核種の4Bq/cm²の30倍、 α 線を放出しない核種40Bq/cm²の3倍に相当します。

このような高い数値設定では、表面線量計では測れない内部被ばくが心配されます。すなわち体内に入った放射性物質の影響を軽視することになりませんか？(注2) 内部被曝の測定及び、内部被ばくを防ぐ対策はどうなっていますか？

(3) 安定ヨウ素剤はいつも手元になれば、事故発生時では交通渋滞などで取りに行くことが困難です。配る側も配り終えるまで逃げられません。このことについてどうお考えでしょうか。

3. 原子力防災計画について

(1) 知事は、「避難先は、覚えやすく実行しやすい避難計画として、風向きにかかわらず、単一としています。」と回答されています。しかし、放射性物質は風で運ばれ、また雨等で降下しますので、被ばくを回避し最小化することになりません。風向きなど気象条件を考慮すべきではありませんか？また過酷事故時には、放射性物質の放出状況や気象条件によっては数時間で西日本一帯が放射能汚染地域になりかねません。そのような事態への対策をどう考えていますか。

(2) 今回の能登半島地震では、志賀原発の避難路とされている道路も多数寸断されました。玄海原発近くで同様の震災がおきた場合、家屋倒壊が発生すれば屋内退避も避難もできません。このような事態に対する対策は検討されていますか？もし想定されている対策があればお答え下さい。もしくは、このような大震災は玄海では起こらないと想定されているのですか？

4. その他

(1) 原発3, 4号機の原子炉圧力容器の脆性遷移温度は、何度になっていますか？

(2) 1975年(玄海原発1号機営業運転)から2022年までの、毎年の放出トリチウムの量と、毎年の玄海町、唐津市、佐賀県、全国の白血病死亡者数及び全部のがん死亡者数をお知らせください。

(注1)「佐賀県地域防災計画」 令和5年3月27日 修正版 参照

https://www.fdma.go.jp/bousaikeikaku/kyushu_okinawa/saga/items/04saga_genshiryoku.pdf

(注2) 内部被ばくの危険性について

呼吸や飲食等で体内に入った放射性物質から出る α 線や β 線が、体の設計図であるDNAを損傷し、がんなどを発生させる可能性がある。また、トリチウム(三重水素)は、水素として

DNAに組み込まれると、人体の元素結合の千倍以上のエネルギーをもつ放射線でDNAを損傷し、また、もしDNAの4つの塩基を結合させる水素に置き換わっていた場合、トリチウムがヘリウムに変わることによって（元素転換）、水素結合が失われることでDNAが損傷する。さらに、放射線は活性酸素種を作り出す。活性酸素種は、物質の化学結合を切る能力が高く、DNAも損傷する。

要請 玄海原発を速やかに止め、がんや障がいが発生させる放射性物質の流出を止めてください。